

1. 内政

・19日、レアンカ首相は、首相就任後100日間の総括において政府の重点事項(雇用の創出、汚職との闘い及び欧州路線)の達成状況を説明し、ビリニウスでのサミットの後、国内改革を加速させる必要がある旨発言。

2. 経済

▼マクロ経済

・17日、国家統計局は、2013年1～6月期のモルドバのGDPが昨年同時期比で実質4.9%増加、2013年第2四半期では6.1%増加した旨発表。

▼国際金融機関との協力

・18日、レアンカ首相は、政府は改革の継続性に関するIMFとの協議にはオープンである旨発言。IMFは、予算政策、構造改革、銀行システムの安定性及び通貨政策に関心を有している旨言及。

・18日、ヒームスケーク世銀常任理事は、新しいパートナーシップ戦略の枠組みで、モルドバへ5億7,000万米ドルを2014～2017年に供与する旨発言。

3. 外政

▼ミニョンPACE議長の来訪

・18日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、モルドバを訪問したミニョンPACE議長と会談し、沿ドニエストル問題に関し協議。双方は、現時点での達成事項及び2013年の課題を確認し、紛争解決の見通しに関し意見交換。ミニョン議長は、モルドバの主権及び領土一体性を尊重した紛争解決を支持する旨発言。

・18日、コルマン議会議長は、ミニョンPACE議長と会談し、ビリニウスでのサミットの見通し、欧州評議会及びPACEとの協力、沿ドニエストル紛争解決の進展等に関し協議。ミニョン議長は、欧州評議会及びPACEはモルドバの欧州統合路線及び連合協定の署名を支持する旨発言。

▼ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相の訪米

・18日、訪米したゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、ベイナー下院議長等の米国会議員と会談し、両国間の政治・経済対話の深化、投資、エネルギー分野等に関し協議。同日、

同相は、ワシントンで開催された討論会「東方パートナーシップの枠組みにおけるモルドバ」に出席。また、同相は、シャーマン国務次官との会談においてモルドバの欧州統合路線に関し説明し、政治、安全保障、経済及びエネルギー等の分野における協力及び沿ドニエストル問題等に関し協議。

・20日、ゲルマン大臣は、米国経済界代表との会合に出席し、モルドバにおける製薬、運輸、情報及び農業分野のビジネスの可能性に関し意見交換。

▼その他

・20日、フィーレ拡大・近隣政策担当欧州委員は、ヤルタ欧州戦略会合において、モルドバとグルジアはビリニウス東方パートナーシップ首脳会合から1年以内にEUとの連合協定を署名できるであろう旨発言。

4. 沿ドニエストル

・16日、カルポフ国家再統合問題担当副首相とシュタンスキ「外相」は、キシナウのOSCE事務所において12日に引き続き会談し、レアンカ首相とシェフチューク「大統領」の会談の実施、犯罪対策及び移動の自由の問題等に関し協議。カルポフ副首相は、あらゆるレベルでの活発な協議の継続の重要性を強調。

・19日、再統合局は、23日にレアンカ首相とシェフチューク「大統領」の会談がティラスポリにおいて実施される旨発表。同日、OSCE議長国のコジャーラ・ウクライナ外相は、キシナウとティラスポリの指導者の直接の対話再開を歓迎する旨の声明を発表。

・19日、ミニョンPACE議長は、ティラスポリにおいてシェフチューク「大統領」と会談し、沿ドニエストル地域をとりまく状況に関し意見交換。同議長は、沿ドニエストル「最高会議」とモルドバ議会との協力を提案。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)